

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

事業名 園芸新ブランド生産拡大支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 野菜果樹特産係 電話番号：058-272-1111 (内 2857)

E-mail: c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,000 千円 (前年度予算額：2,721 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附 金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,721	0	0	0	0	0	0	0	2,721
要求額	2,000	0	0	0	0	0	0	0	2,000
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・県において、近年、新品種(柿「ねおスイート」、栗「えな宝来」、栗「えな宝月」、イチゴ「華かがり」、桃「飛驒おとめ」)を育成した。
- ・県への導入又は育成後期間の短い品種について、生理生態に不明な部分が多く、現地での栽培技術が確立されておらず、高品質生産技術の確立が求められている。
- ・令和元年度に地方創生拠点整備交付金(H30年度3月補正)を活用し、県育成品種の維持、供給に必要なイチゴ優良種苗安定供給拠点施設を整備した。許諾団体も新たに増殖施設を整備、県下供給体制の再構築が求められている。

(2) 事業内容

○県育成イチゴ優良種苗の安定供給

- ・岐阜県産イチゴのブランド化・生産販売振興を促進するために、令和元年度に整備したイチゴ優良種苗安定供給拠点施設を核として、県育成品種(濃姫、美濃娘、華かがり)の維持管理、許諾団体へ原原種苗の安定供給体制の構築を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

本県育成品種のブランド化・生産販売振興のために、県が負担することは妥当。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
需用費	2,000	・イチゴ優良種苗安定供給拠点施設の稼働にかかる消耗品費、光熱水費、燃料費等
合計	2,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「ぎふ農業・農村基本計画」

第6章 主要品目別施策

(5) いちご

- ・県育成品種のラインアップを強化するため、「濃姫」「美濃娘」に次ぐ、新たな品種「華かがり」の導入を推進する。

2 売れるブランドづくり

<基本施策>

(2) 新品種・新技術の導入

- ・県育成品種等を現地に普及するため、生産者、JA等関係機関、普及指導員を構成員とした栽培技術研究会を立ち上げ技術統一を図るなど、岐阜県オリジナルブランド化を目指す。

事業評価調書

新規要求事業
 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- 「ねおスイート」「早秋柿」「太秋柿」の安定生産が図られることにより、「岐阜柿」の品種リレーの構築と「かき＝岐阜」のイメージを高め、「岐阜柿」ブランドの向上に努める。
- 「えな宝来」「えな宝月」「ぼろたん」を含めた優良品種の組み合わせによる出荷期間の分散化、生食ニーズの創出、担い手確保を推進し、クリ産地活性化につなげる。
- 「飛騨おとめ」の生産拡大に向けた技術指導支援を行うことによりモモ産地の活性化を図る。
- 「華かがり」の安定生産技術の開発と大果で多収となる県オリジナルの「夏秋いちご」品種の開発を行うことでイチゴ産地の規模拡大を図る。
- 岐阜県産イチゴのブランド化を促進するために、県育成品種の維持管理、安定供給体制の構築を行う。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
【かき】新品種「ねおスイート」作付面積	— (H26)	(H)	(H)	5ha (R1)	5ha (R3)	% 100
【くり】地元菓子業者への供給量	134t (H26)	(H)	(H)	164t (R1)	200t (R3)	% 82
【いちご】単収	3.3t (H26)	(H)	(H)	3.4t (R1)	4t (R3)	% 85

○指標を設定することができない場合の理由

(前年度の取組)

- ・ねおスイート栽培技術研究会の開催により現地栽培技術の検討
- ・えな宝来・えな宝月・ぼろたんの凍害対策技術の普及推進。
- ・飛騨おとめ収穫適期の把握方法の検討

(前年度の成果)

- ・ねおスイート栽培面積の拡大
- ・えな宝来・えな宝月・ぼろたんの凍害対策技術の実証
- ・果実着色と糖度の分析による収穫適期把握のためのデータ収集、分析

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	消費者の期待や市場からの需要も高いが、各品種それぞれの問題点・課題により生産量がまだまだ少ない状況にある。それぞれ高単価が期待できる品種であり、課題を解決し普及を図ることで生産拡大につなげていく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	各品目ともに解決すべき課題も多いものの、生産者も各品目に高い関心を寄せており、栽培面積や出荷量は順調に伸びている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	各品目の主な産地や収穫時期等がそれぞれ異なっているうえ、各品目で解決すべき課題も異なることから、これ以上の効率化は困難。

(今後の課題)

<p>各関係機関が連携し、高品質安定生産によりブランド化に取り組んでいく必要がある。これらの高単価が期待できる品種の導入・普及に取り組むことを契機に、産地の活性化につなげる。</p> <p>今後の岐阜県育成いちご品種のブランド化推進、安定生産に向け、優良種苗安定供給拠点施設での県育成品種の維持管理、安定供給体制の再構築を行う必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>イチゴ優良種苗安定供給拠点施設を核とした、県育成品種（濃姫、美濃娘、華かがり）の維持管理、安定供給体制の再構築</p>
--

他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	<p style="text-align: right;">【○○課】</p>
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	